



【楽しい職場 No.1 を目指す 100 年企業】

お酒と気配りを届けて 1 世紀。受け継がれる明治屋スピリット

明治屋は大正 11 年（1922 年）に創業、100 年近い歴史を持つ老舗の酒卸問屋だ。創業当時はリヤカー一台でスタートした小さな個人商店だったが、現在では 70 名の社員を抱える大所帯となった。同社では、日本に流通している酒類、約 1 万種のうち 70～80%を取り扱っているという。他では手に入らないようなお酒を届けてもらえるのが、明治屋の魅力の一つ。しかし、同社が届けるのはお酒や商品知識だけではない。東京 23 区内と千葉県、埼玉県の一部地域の顧客に、お酒とともに元気と気配りを届けている。

顧客の 90%は個人経営の飲食店。数十年という、長いおつき合いが続いているお店も少なくない。その秘訣は「以和為貴（わをもってとうとしとなす）」の精神をひたすらに受け継いできたことにある。同社にとって得意先、仕入先とは単なる商売相手に留まらない。良いときも悪いときも共に支え合うパートナーとして、深い信頼関係を築き上げているのだ。営業部長の沓名（くつな）氏によると、こんな話があったという。創業者である祖父に、昔は一人で何軒ぐらいのお客様を担当していたのかと聞いたところ、150 軒との回答。なんだ、そんなに少なかったのかと思っていたら、その話には続きがあった。「お客様のお子さんの誕生日まで覚えていられたのは、150 軒までだったね」と。創業者が顧客をいかに大切にしてきたかが伺えるエピソードだ。明治屋には今でも「人対人」の絆を大切にしている精神が脈々と受け継がれている。



風通しの良さが自慢

明治屋の社風をひと言で表すと「大きな家族」だという。「人対人」の関係を重んじるのは、経営者と社員、社員同士の関係でも同じこと。100年近い伝統があり、70名の大所帯ながら、風通しの良さが自慢だ。昼休みには数人でボール遊びに興じる姿が見られ、休日に花見やバーベキュー、ソフトボール大会などで集まることもしばしば。社員同士がとにかく仲がよく、社歴30年の社員と入社2年の社員が対等な立場でコミュニケーションを取っている。

お酒を扱う同社では、ソムリエや利酒師などの資格取得の支援も積極的に行っている。メーカーの勉強会に参加することもあれば、社員が有志で集まり、勉強会を行うことも。お互いを励まし合いながら切磋琢磨する仲間がいるというのは、自分自身の成長を実感しやすい環境ではないだろうか。

自分を信頼してもらうことから始まる仕事

明治屋の朝は、配送職と営業職が総出でお酒の荷出しをすることから始まる。営業職が作成した伝票をもとに、33台のトラックにお酒を積み込むのだ。数千種類の中から目的のお酒を搬出し、確実にトラックの荷台に乗せる作業には、慎重さと体力がものをいう。荷出しは1~2時間で終了し、配送職は配達ルートに出発。営業職は事務所での報告作業や顧客訪問を行う。



配送職は体力勝負の仕事。真夏の暑さでバテることもあるが、社員たちはお客様の「ありがとうございます！」の言葉に救われるという。「明治屋さんありがとう」が「〇〇君ありがとう」に変わったとき、人対人の関係が始まったのを感じるのだそうだ。

営業職はお酒の種類や顧客情報を覚える為に、約一年間配送職を経験する。既存の顧客への提案も大切だが、町に出て自分の足で新規顧客を獲得するのがメインの仕事だ。営業のやりがいは、頑張った成果が目に見えること。しかし、ここでも大切なのは人対人の関係。飲食店や、お店でお酒を楽しむ方にいかに喜んでいただけるか、また新しい顧客にいかに自分や会社を信頼してもらうかが要となる。単に数字を追うことだけを良しとしないのが、明治屋流なのだ。

楽しい職場日本一を目指す

杓名氏は「もし楽しい職場コンテストがあったとしたら、当社は日本中の会社でかなり上位に入ると思います」と語る。日本一楽しく、働きやすい職場を目指して、職場改善にも取り組んでいる。

ガムシャラに業務に向き合ってくれる方なら大歓迎だという同社では、一日職場体験を実施している。体験入社後の就職率は100%。「自分は体を動かす仕事には向いていないのでは？」と思っている方にこそ、体験してほしいという。入社時はビールの樽をトラックの荷台に上げることができなかった社員が、今では先陣きって走り回っているというから驚きだ。楽しく仕事がしたいと思う方は、ぜひ一度明治屋を訪れてほしい。